

平成21年度学校体育振興事業

「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」

研究報告書

ふりがな 学校名	しまねけんごうつしりつせいりょうちゅうがっこう 島根県江津市立青陵中学校
-------------	---

校長名：佐々木友孝

所在地：〒695-0024

島根県江津市二宮町神主1964-8

電話番号：0855-54-3700

運動のもつ特性を探し、気づき、味わい、積極的に楽しむ生徒の育成
～武道（柔道）学習を通して～

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特徴

本校は、江津市西部に位置し、市内の中学校では最も生徒数が多い。当該地域は特に柔道が盛んな地域であり、実践校においても心身ともにたくましく、礼儀正しい生徒の育成をめざして保健体育科の授業で柔道を取り入れている。

しかし、近年、3年保健体育科教科内選択（柔道とダンス）において、ダンスを希望する生徒が増える傾向にある。その理由は「柔道は経験の有無や体格・体力の差が大きく影響する」、「投げたり、押さえ込んだりすること自体が苦手である」などであった。これらのことは相手の力を利用するという柔道の醍醐味を感じていなかったり、組んだり、押さえたりという身体的な接触の経験が少なかったりするためと思える。今日、子どもの遊びのスタイルが変化していることや小学校の体育科の授業で柔道に取り組んでいないこともあり、生徒が柔道に取っ付きにくさを感じていると考えられる

また、平成20年度における生徒、保護者、教職員を対象とした学校評価に係るアンケートからも礼に代表される伝統的な考え方や行動の仕方、相手を尊重する態度等に課題が見られた。

2 学校の概要（平成21年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	3	3	3	3	12	
生徒数	男	40	44	46	5	135
	女	44	38	50	1	133

教員数 26名（保健体育科 2名）

武道・ダンスの授業の状況

領域：武道

領域の内容：柔道

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	15	10	12	1年:15、2年:14、3年:14	43	
担当教員数 (外部指導者)	1 (1)	2 (1)	1	1年:1、2年:2、3年:1 (2)	4 (2)	
生徒数	男	40	45	37	5(通常の学級との交流)	127
	女	44	38	13	1(通常の学級との交流)	96

領域:ダンス

領域の内容:創作ダンス

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	7	7	14	1年7、2年:7	28	
担当教員数 (外部指導者)	1	1	1	1年:1、2年:1	3	
生徒数	男	40	45	9	4(通常の学級との交流)	98
	女	44	38	37	1(通常の学級との交流)	120

II 研究の内容及び成果等

【研究成果の要点】

- 単元計画の構造図の作成、ゲストティーチャーを活用したTT指導や技能別指導を通して
 - ・新学習指導要領の趣旨や内容を再度確認でき、それを踏まえた単元計画や授業づくりを考えることができた。
 - ・柔道のもつよさをより多くの方から示してもらうことができ、柔道に対する興味・関心が高まった。特に女子生徒の柔道への抵抗感が低くなり、意欲的な活動につながった。
 - ・男子生徒の中には技術が大きく向上した生徒もおり、達成感を持つことができた。
 - ・技のタイミングやポイントを見つけるためのヒントを個々の指導の中で体得でき、効果的に技をかける体験を積むことができた。
- 柔道学習を通して武道の精神に触れ、礼儀正しい振る舞いをする中で、
 - ・礼を尽くすことの大切さやそのすがすがしさを実感することができた。
 - ・他者を尊重する態度づくりにつながった。
- オリエンテーションの実施や柔道ノートの活用を通して
 - ・見通しを持って学習を進めることができた。
 - ・自己の運動感覚を言語で表すことができ、互いに教え合う場面が多く見られた。

1 研究主題等

(1) 研究主題

運動のもつ特性を探し、気づき、味わい、積極的に楽しむ生徒の育成

～武道（柔道）学習を通して～

(2) 研究主題設定のねらい

「より効果的な運動を、練習を通して見つける」、「礼儀正しく、自律的な態度で生活できるとともに、他者を尊重することができる」、「健康で物事に粘り強く取り組むことができる」など、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成に向け柔道学習を通して迫りたいと考え、本主題を設定した。

(3) 取組体制

地域連携指導推進協力者会議	
<ul style="list-style-type: none"> ・有識者 ・地域指導者 ・近隣中 ・高等学校体育科教員 ・実践校担当者 	

(事務局) 江津市教育委員会	

助言・
提言・
協力

↓

報告・
相談

↑

実践校	研究推進委員会
	校長、教頭
	教務主任、研究主任
	保健体育科教員 柔道部顧問

(4) 主な取組

平成21年度	<p>○2回の地域連携指導推進協力者会議（第1回：H. 21. 12. 16、第2回：H. 22. 1. 22）を開催し生徒の実態や指導上の課題、研究の方向性、研究実践の成果と課題について、協議を行った。</p> <p>○講師（広島大学准教授 出口達也氏、江津中学校長 濱岡繁人氏）を招いて2回の武道指導者講習会（第1回：H. 21. 11. 20、第2回：H. 22. 1. 22）を開催し、指導力向上を図った。</p> <p>○保健体育科柔道学習の単元計画の見直しと2回の研究授業（第2学年：H. 21. 12. 16、第3学年：H. 22. 1. 22）を通して、授業力の向上を図った。</p> <p>○校内柔道大会（対象：2年生、時間：2時間）を行い、柔道学習の成果を発表する場を設けた。寒稽古も計画したがインフルエンザの流行のため実施できなかった。</p>
--------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 具体的な研究課題1

「生徒の実態把握と指導の工夫改善」

- ①取組<第1回地域連携指導推進協力者会議の開催>
第2学年柔道の授業参観の後、生徒の実態と課題解決に向けた取組について協議を行った。主な協議内容は以下のとおりであった。

<生徒の実態>

- ・女子の取り組み姿勢は低調であり学習意欲、取り組む態度とも男女差が大きい。他者と組み合ったり、接触したりする体験が少なく、相手を投げたり押さえ込んだりすることへの戸惑いがある。まずは体と体との接触する活動を十分行う必要がある。
- ・基礎的な動きづくりに指導時間をかけるため、TTであっても能力の高い生徒に十分な指導ができにくい状況がある。

<課題解決に向けた取組>

- ・投げの練習では立て膝をつく、固め技では簡易な形からはじめるなど、取り組みやすさを重視し、スモールステップでの指導と評価を行う。
- ・課題別班編成による小集団学習、地域の指導者をゲストティーチャーとした授業など指導形態を工夫する。
- ・体力面の関係から学習内容を理解していても、身体的に表現できない生徒もいる。したがって、手順を踏んでいる、ポイントを意識しているなど、知識・思考・判断を重視した声かけを行う。そのために学習ノート等を活用し、生徒の意識面を重視した指導を行う。
- ・柔道部員や柔道経験者を有効に活用して、授業を展開する。このことは生徒同士の学び合う態度づくりにつながる。

②成果と課題

- ・小学生等初心者指導している地域指導者からの提案は、やりやすさをよく考えた指導法であり、はじめて体育の授業で柔道を行う1年生の技術指導にとっても役立った。
- ・女子生徒の意欲を高めるための手だてについて多くの時間をかけて協議し、生徒の理解や指導の方向性について多くの情報を得ることができた。

(2) 具体的な研究課題 2 「教員の指導力の向上」

① 取組

○ 単元計画の構造図の作成 (※参考資料「2年単元計画の構造図」参照)

国から示された作成要領にしたがい、具体の指導場面を想起しながら単元計画の構造図を作成した。新学習指導要領とその解説を再度読み直し目標や内容を確認しながら、授業のポイントを適切な声かけや発問として考えた。また、互いにタイミングやポイントを押さえているかを伝え合ったり、アドバイスをしたりする活動を多く取り入れることで、生徒同士の関わり合う場を多く設けようとした。

また、「柔道ノート」を作成し、生徒自身が学んだこと、考えたこと、課題となったことなどを記録させるとともに、記載状況から生徒のねらいや内容の理解度や学習の達成感等意識の変化を把握しようとした。

○ 武道 (柔道) 指導者講習会の実施

近隣中・高等学校教員、地域指導者を対象とした指導者講習会を2回開催し技術力、指導力の向上を図った。



講習会講師と受講者

以下は参加者の感想である。

- ・ 基本の動きをあらためて理解することができ、授業への資料となった。実際に体を動かしてみても、以前教わったことでおろそかになっていることに気づくなど、よい講習の場になった。
- ・ 優れた指導者のもとで講習を受けることで目的を持って取り組めた。受講者同士が指導について活発に論議することもあり、今後の指導に向け大変参考になった。また、柔道の動きと関連させたウォーミングアップや基礎体力づくりのメニューを教えてもらい参考になった。
- ・ 実践的な内容は授業づくりよりも部活動で活用することの方が多く、柔道初心者への指導には活かしにくかった。

○ 授業研究の実施 ～意識面を重視した指導～

技能の定着には大変時間がかかること、体力的に技をかけることが困難な生徒もいることが、生徒が柔道学習に抵抗感をもつ原因と思えた。そこで技を決めることはできなくても、技をかけるタイミングやポイントなどを見つける学習など、生徒の意識を高めることを重視した学習を展開した。このことは協議会においても指摘されたことであり、指導の工夫改善の柱として取り組んだ。以下はその実践例である。

対象	2年1組 男子16名、女子13名	
指導時間	本時 10/14時間	
ねらい	小内刈りに入るタイミングについて考え、約束練習の中でその体さばきを見付ける。	
	主な学習活動	指導上の留意点と支援・評価の方法
	1. 座礼、準備運動	○健康状態をチェックさせる。
	2. 固め技の練習 30秒×3	○練習前後には柔道衣の乱れを直し、お互いに礼をさせる。 ○練習中にぶつかることがないよう巡視する。(T1・T2)
	3. 大内刈りの練習	○既習内容の体さばき・受け身についておさえる。(T1)
	4. 小内刈りの練習① ・小内刈りの体さばき・受け身を練習する。	○前時で学習した大内刈りの崩し・体さばき・受け身を正しく理解し、行おうとしているかを確認しながら巡視指導を行う。(T1・T2)
	5. 小内刈りの練習② ・モデルの生徒の動きを見ながら、小内刈りにかかるタイミングを考える。 ・小内刈りにかかるポイントについて、自分の考えを発表する。 ・動きながら技をかける練習をする。	○小内刈りのくずし・体さばき・受け身について説明する。(T2) ○巡視指導を行う。(T1は女子・T2は男子) ○柔道部の生徒と一般の生徒によりモデルを示し、その違いについて考えさせる。
	6. 本時の学習について、柔道ノートにまとめる。	[評価] 小内刈りにかかるときのタイミングとその時の体さばきを説明できる。 ○巡視指導を行う。(T1は女子・T2は男子)
	7. 本時のまとめと次時の予告、座礼	○柔道衣を整えて整列・着座させる。

技をかけるタイミングを見つけるため示範を見たり、約束練習の中でやってみることで、効果的に技をかける体験を多くの生

徒が味わえた。また、より実践的に技をかけるためにはくずしや 体さばきが必要であることに気づくことができた。

柔道部の生徒に教え方やポイントを理解させることにより、教え合いの中で技の習得が進み、また意欲面での向上も見られ、活発な活動につながった。

②成果と課題

柔道部員のいない1年生を対象に、柔道学習が終了したあと以下のアンケートを行った。

質問内容	A	B	C	D
① 柔道の学習を楽しむことができた。	38.1	47.6	9.5	4.8
② 友達と協力し、互いに教えあって活動した。	29.8	61.9	8.3	0
③ 礼法やルールを守り、安全に注意して活動した。	52.3	41.7	4.8	1.2
④ 柔道の歴史について理解することができた。	19.0	61.9	11.9	7.2
⑤ 礼法の意味や方法を理解し、正しく行うことができた。	32.1	55.9	6.0	6.0
⑥ 受け身の意味や方法を理解し、正しく行うことができた。	23.8	63.0	7.2	6.0
⑦ 技術を身につけるために、ポイントを考え練習した。	14.3	57.1	25.0	3.6
⑧ 技術を身につけるための練習の仕方がわかった。	16.7	57.1	20.2	6.0
⑨ 技をかけるタイミングやポイントがつかめた。	13.1	54.7	25.0	7.2

※A：そう思う、B：ややそう思う、C：あまり思わない、D：思わない ※単位：%

この結果から以下のことが伺える。

- ・多くの生徒は柔道の学習を楽しみながら、互いに協力し合って取り組んでいる。
- ・多くの生徒が正しい礼法等について理解し、実践している。
- ・教師の観察や柔道ノートの記載からは、技をかけるタイミングやポイントを見つけようと考えながら取り組んでいる生徒が多い。しかし、ポイントを意識した練習が不十分であり、技をかけるタイミングやポイントが十分つかめていない生徒が多い。

(3) 具体的な研究課題 3

「生徒の興味・関心・意欲の高揚」

①取組<校内柔道大会>

柔道学習の成果を発表する、試合を楽しむことにより柔道に対する興味・関心を高めることをねらいとして、2年生を対象に学年柔道大会を実施した。(写真2、3)

期 日 平成22年2月17日
 参加者 2年生87名
 方 法 男女別、男子は1チーム5名、女子は1チーム3名で構成し、予選リーグ戦と決勝リーグ戦を行い、優勝チームを決定した。

②成果と課題

- ・授業の中でも自由練習(試合形式)を取り入れていたが、他の学級との試合は生徒にとって楽しみな活動であり、一生懸命取り組んでいた。特に女子生徒が本気で試合に臨みよく動いていたことは大きな成果であった。
- ・ノンスリップ畳を敷くことで試合会場を4面とることができたため、2時間で終わることができた。
- ・審判は柔道部の生徒が行った。柔道部の生徒の指導もあり、試合前後の礼、道衣の直しが徹底されていた。一般の生徒が審判をできるまでには至っていない。



写真2(男子試合)



写真3(女子試合)

(4)今年度のまとめ

第2回地域連携指導推進協力者会議を開催し、今年度の取組やアンケート結果等について説明するとともに、今年度のまとめを行った。

<成果>

- ・女子の生徒の取り組みが意欲的になってきており、学習を通して柔道への抵抗感が低くなっていると実感した。相手と組む、相手を投げるといった動作への慣れとともに、技が完全に出来なくても技に入るタイミングを意識した動きづくりに重点をおいた指導の成果と思える。
- ・男子は柔道部員以外にも技に磨きがかかった生徒がいた。ゲストティーチャーを活用したTT指導や技能別指導の成果と思える。

<課題>

- ・技のタイミングやポイントをつかむためには、動きながらくり返し練習する必要がある。より実践的な技の習得のためには、動き方にさらに工夫が必要である。
- ・柔道ノートは生徒が課題をきちんと把握し学習内容を理解しているかを見極める上で有効な資料であり、さらに工夫を加える必要がある。

3 研究成果の普及

- 指導者講習会のDVDを関係者に配付する。
- 研究報告書を近隣中・高等学校へ配付し、研究成果の普及を図る。

4 今後の展望

- 柔道の楽しさを味わうとともに、柔道に込められた思いや願いを生徒が十分に理解し練習や試合を行うことで、礼や挨拶、服装を整えるなど、自らの身を正すことや仲間の体調に気づき相手を思いやる気持ちを育てたい。
- 単元計画の構想図の精度をさらに高め、ねらい達成に向けた手だてを教師の具体的な声かけ、働きかけの面から明らかにしていくことで、意識面を重視した指導の充実を図る。

※参考資料（「2年単元計画の構造図」

技能、思考・判断の「授業ポイント」と「配当時間」、「学習内容」部分のみ一部抜粋）

時 間	1 2	3 4	5 6 7 8 9 10	11 12 13 14
内 容	復習 礼法	基本と なる技	基本となる技の練習	攻 防
授業のポイント（発問、声かけ）	受け身	と返し方		
技 能	<ul style="list-style-type: none"> ○受け身 <ul style="list-style-type: none"> ・肘をつかないよう肘を伸ばそう。 ・背中が畳につく瞬間に畳をたたこう。 ・手、肩、背中 of 順で畳につくように前回り受け身をしよう。 ○固め技 <ul style="list-style-type: none"> ・仰向けの姿勢から相手の奥襟を取り、引き寄せて上半身を征しよう。 ・仰向けの姿勢から相手の膝をけり上げ、相手を返して抑えよう。 ○投げ技 <ul style="list-style-type: none"> ・「押し込む、引き出す」の繰り返し動作の中で、相手の動きに応じて技をかけよう。 ・「押し込む、引き出す」の繰り返し動作の中で、相手の勢いを利用して投げよう。 	身なり 受け身 固め技 横四方固 めの返し 方 片方が仰 向けの姿 勢からの 攻防	<まわし技系> ・体落とし→大腰 <支え技系> ・膝車→支え釣り込 み足 <刈り技系> ・大内刈り→小内刈り	<ul style="list-style-type: none"> ・動きなが らの約束 練 習 ・自由練習 (試合形式)
思 考 ・ 判 断	<ul style="list-style-type: none"> ・技に入るタイミングやその時の体の使い方について考えてみよう。また、その時の体さばきについて、まとめてみよう。 ・今まで学習した中で、自分ができた技や体さばき、受けとできなかったことを整理してみよう。またその解決に向け、ヒントになることはありませんか。 ・授業の中で「あぶない。」と思ったことはありませんか。 ・危険なことを避けるために、どんなことに気をつければよいですか。 			

自分の役割に応じた協力の仕方を見付ける

技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付ける

自分の課題を見付け、その解決に向けた練習方法を選ぶ